



2003～2004年度

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA—NORTH

例会日：毎週水曜日 12:30～13:30

例会場：越谷市千間台東1-1-6

クオレ千間台 2F

TEL 048 (975) 9898

FAX 048 (977) 3741

創立：1976年5月11日

会 長：小林 操

副 会 長：今野 忠雄

幹 事：太田 靖彦

会報委員長：石川 輝次



第1357回例会記録 No.18

平成15年11月19日

司会：中島 正義

編集：石川 輝次

会次第

- 1、点鐘
- 2、ロータリーソング（我等の生業）
- 3、会長挨拶
- 4、幹事報告
- 5、お客様紹介 山口 優 様
安藤 邦恵 様
本田 様
- 6、外部卓話
- 7、終鐘

次回例会予告

平成15年12月3日

結婚・誕生祝い

四つのテスト

内部卓話

会長挨拶



会長小林操

来週は、越谷市民まつり、そして地区大会、それぞれの担当の会員には宜しくお願い申し上げます。また今月はロータリー財団月間、寄付の方も宜しくお願いします。そして最も重要な増強も宜しくお願いします。本田さん、今日の帰りには、是非入会の決断をお願いしたいと思います。

小林会長はいつもロータリーの事ばかり話をしていると気づいておられる方は大勢いらっしゃると思

います。現実にそうです。一會員のときは、与えられた役職を全うすることを考え、親睦と奉仕の車輪の基、非常に気軽に楽しい生活でした。

先週の指名委員会で次年度理事役員について会長エレクトに一任されました。恐らく着々と各會員にお願いすることが始まっていると思います。今日は皆さんに心構えを伝授したいと思っております。

理事役員はそれぞれの担当委員会等の責任者です。会社でいえば、担当部署の責任者と言うのと同じでしょう。会社の責任者は、一にも二にも成績を上げなければなりません。成績を上げるにはどうしたらいいかが、最大の問題でしょう。組織としてのチームワークがベースでしょう。そして報連相の徹底、原価意識、共通目標、硬軟の激励等々、色々あるかも知れません。一言で言えば、リーダーシップが問われるのです。指導力、協調性のないリーダーは誰も付いて来ないでしょう。ロータリークラブの理事役員にも同じことが求められています。

来年3月に会長エレクトセミナー(pets)が開催されます。内容のほとんどが、リーダーシップの心得についてです。指導力、協調性、そしていかに會員の意識を喚起し、行動を実行するか、これは、いわゆる実践経営学の世界です。決断に実行、そして責任、多くの会長経験者が、自己の経営の経験を再度、ロータリークラブに活かして来ました。

皆さん、是非自己の経験をロータリー活動に活かしてください。利益成績を上げるのではなく、奉仕の活動の充実を目指してください。ありがとうございました。

幹事報告



副幹事 松崎 義一

地区大会及び市民祭りへの参加宜しくお願い致します。

委員会報告



社会奉仕委員会

長谷川 真也

市民祭りへのご協力宜しくお願い致します。尚、雨天の場合はFM79.5で朝8時にお知らせ致します。

雑誌記事紹介



増田 英樹 会員

ロータリーの友 8月号「言いたい聞きたい」コーナーに掲載された「ロータリークラブに一言」について紹介がありました。

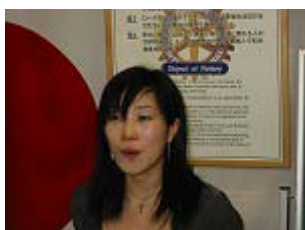
お客様紹介



本日のお客様

左から 本田様、山口様、安藤様

月間卓話



「財団奨学生としての留学生活を通して」

R財団学友 安藤 邦恵 様

私は、2002 - 03 年度ロータリー財団国際親善奨学生として、イギリスはスコットランドのエジンバラにあるエジンバラ大学大学院で1年間神経学を学んできました。

自己紹介を致しますと、私は筑波大学第二学群生物学類出身です。大学3年次に、イギリスのマンチェスター大学に交換留学をしていた折に、たまたま知り合いになった日本人留学生の女性が、ロータリー財団の奨学生でした。ロータリーについて、ポリオプロ

ジェクトや、ローターアウト等の活動を、彼女が詳しく教えてくれまして、ロータリーに大変興味を持ち、財団奨学生に出願することを決意いたしました。イギリスからの出願ということで困難なことも色々ありましたが、運良く選考に通ることが出来ました。

私は、神経病理学に大変興味があり、特に分子のレベルで研究をして行きたいと考えております。マンチェスター大学に交換留学をしていた1年間は、抗鬱剤の脳基底核(脳内の運動をつかさどる部分)への影響を、ラットの脳を用いて研究しておりました。その後、筑波大学に戻り、卒業研究として、細胞分裂に関わるタンパクの解析を10ヶ月間行いました。大学卒業後は、理化学研究所の脳神経総合研究センターで、研修生として3ヶ月間実験を行いまして、2002年の9月よりエジンバラ大学大学院神経学科に進学いたしました。エジンバラ大学では、1学期は授業中心、2学期は大学病院で脊椎の病理学の実験プロジェクトに携わり、3学期は分子生物学的手法(俗に言う、遺伝子操作です)を用いて、脳内で記憶に関わることが知られている Arc (アーク) というタンパク質の発現に関わる実験を致しました。毎日朝から晩まで実験室で一生懸命実験をし、この2つのプロジェクトの両方共、面白い結果を出したと思っております。論文発表される予定です。

エジンバラの留学以前から、ロータリーには大変お世話になり、5回のオ

リエンテーション、スポンサーである川口北東 R.C.との係わり合いを通して、自分は大きく成長していったと思います。そしてエジンバラに留学中も、20 回の卓話や、15 回に及ぶイベントへの参加、及び、スコットランドのロータリアンや、他国からの財団奨学生との係わり合いを通し、忘れられないような素晴らしい経験をさせていただきました。スコットランドのロータリアンは、日本のロータリアンと同様、非常にジェントルマンでした。派遣先の 1020 地区では、日本の生活について卓話をさせてもらっておりましたが、いつも卓話終了後に沢山の質問や感想を受け、日本についての理解や興味を深めてもらったというような手ごたえを感じることができました。スコットランドのロータリアンも、日本のロータリーのあり方について、大変興味を持たれていました。国際親善奨学生制度は、国家間の理解と親交を深める意味でも大変有益なものだと思います。

ロータリーの知名度は、本当に驚くほど高く、また、スコットランドのロータリアンの方々も、ロータリアンであることを大変誇りにしていらっしやいました。私が、ロータリー財団の奨学生ということで、敬意を持ってもらったと感じる場がたくさんありました。また、一人で、スコットランドの北端に旅行した折、駅前広場の花壇に、“Rotary International” と美しい植え込みがしてあるのを目にし

して、イギリス全土一円にロータリーの輪が広まっていることを実感いたしました。

印象に残ったのは、スコットランドのどのクラブでも「ラッフル」と呼ばれるくじ引きをしていたことです。誰かがボトルのウイスキーや、ワインを用意して、それぞれ会員の皆さんがくじを好きな値段で買います。その日のゲストがくじをひいて、くじに当たった人がそのボトルをもらえます。そこで集められたお金は、ポリオなどのプロジェクトに回されます。これは日本のロータリーで行われるニコニコボックスに当たるかと思います。このようにして、毎回の例会で、地球の裏側にいる、助けを必要としている人々のために努力を積んでいく寛大さは、日、英だけでなく世界中のロータリークラブでなされている努力だと思います。私は、ロータリーとの係わり合いを通じて、「いいことをする、というのは、本当にいいことだ」と実感いたしました。

現在私は、東京大学医科学研究所にて、神経情報の分野でテクニカルスタッフとして働いており、2004 年 9 月から 3 年間、フランスのパスツール研究所で博士課程の学生として勉強する予定です。将来は神経学者になりたいと思っており、専門分野から、ロータリーだけでなく世の中全体にフィードバックしていけるよう、努力していきたいと思っております。



地区 R 財団推進委員長
山口 優 様

財団奨学生の選考過程の説明及び、奨学生、学友の活躍状況を紹介されました。

出席報告

会員数	50名
出席免除	4名
出席者	33名
欠席者	13名
出席率	71.7%
前回メークアップ	3名
前回修正出席率	78.2%

今週は地区大会と市民祭りの日程が重複しましたので二手に分かれて参加しました。越谷市民祭りのスナップです。



